

18/11/2 第13回特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議天守閣部会  
名古屋市民オンブズマン作成メモ

10:00

蜂谷主幹：始める

出席者紹介 麓先生欠席

資料確認

西野所長：先生方忙しい中ありがとう

部会の前に ご尽力賜りました

片岡やすお 9月13日逝去 ご冥福をお祈りする

12回部会 文化庁にお話したけれども、木造復元事業

10月文化審議会諮問に至らない

現状変更許可もいたらない

報告、進め方も説明したい

指摘事項 寸法分析

蜂谷主幹：テレビ・写真はこれまで

報告

村木主幹：報告 進め方

基本計画書を諮った

現状変更許可をいただくことはできなかった 説明

表 7月13日 石垣部会から

石垣保存方針が不十分

7月19日 修正したものを天守閣部会で見せた

石垣部会が了承をえるように

7月20日 文化庁 「石垣部会の了承を得るように」

文化庁に回答は出した

10月文化審議会を目指して努力

9月10日 石垣部会と認識の一致まで至らなかった

9月28日 文石協と相談

10月15日 市長 諮問に至らなかったと表明

・復元検討委員会への回答

回答を削除

復元検討委員会からの意見が出た

- 4) 石垣保存の課題と対応
  - ア) 適正な石垣調査体制の確保  
来年度調査研究センター立ち上げ
  - イ) 具体的な石垣保全措置の計画  
解体時、建築時の石垣影響を検証
  - ウ) 緊急性が高いと判断された場合  
処置を優先
  - エ) 基礎構造  
必要に応じて見直しを行う
- 5) 今後の進め方

蜂谷主幹：質問があれば

瀬口：資料1

- 7月19日 「天守閣部会だけ」  
石垣については了承していない  
そこがあいまい

蜂谷主幹：資料を修正したい

- 他には ない
- 議事に移る
- 瀬口座長に一任

瀬口：天守閣部会に関わる部分

- 新聞のコピーは行っているのか？
- 名古屋市内 住んでいるのは2人
- 正式な情報もあるが、「見送った」全体の工程に影響してくる
- 天守閣部会の議論に影響がある
- 知らせて欲しい
- それがあるので、今年の5月、6月 木材調達契約
- 乾燥期間が必要 今年の冬に伐採しないといけない
- あたりをつけて切る場所を決めているはず
- 木材調達はどうなっているか報告を

竹中：木材調達報告

- 柱、梁 ひのき 長尺全国から ほぼ完了している

産地 名古屋城築城記録されている 木曽ヒノキ 現在かなり難しい

太いのは特に困難

名古屋城は木曽ヒノキを使われた経緯がある

困難 木曽地方、裏木曽との調整を行っている

できるだけ使用できるようにしたい

使い方、使用する部位 主要な部分に使いたい

梁 まつ 岩手県を中心に調達

柱 けやき 国産7年貯木

ベイヒバ 長尺太い3本→国産まつ材でできそう

土台 断面が小さいものは国産材を検討

瀬口：ご意見は

古阪：プロポーザル 市況

変動はどうなっているか

いいものを作るのはよいか

竹中：調達中 最終ではないが、できるだけ予算の中で収まるように調整している

瀬口：契約しているわけでしょ

竹中：契約している

瀬口：予算内にやるのが当然ですよ

川地：ベイヒバを使わざるを得ない→国産まつを使う

ご尽力頂いている

柱についても木曽ヒノキを使えるように

個人的に思っている

最終的には主要な部分は木曽の材を使ったと公言できるように

厳しい環境の中 コストの問題も

竹中：できるだけ使用できるように

瀬口：主要な部分という認識が違うよう

長尺大径は終了

川地：柱だと思う

どれだけ木曾ヒノキが使えるかがポイントになるのでは

瀬口：今の点どうですか

竹中：そう思っている

検討している

瀬口：次回議題に出してはどうだろう

今回は 12 月 逃すと伐採のタイミングが遅れる

蜂谷主幹：次回天守閣部会で資料をそろえたい

瀬口：説明を

竹中：主な指摘事項 資料 2

川地：3 番の件 私が「平準化をするように」取れる

シミュレーションが平準化されていた 現実にはそれはどうか

午後 2 時が多い

逆 しなくて時間帯によって増減 加味した上での避難計画

竹中：再度検討したい

瀬口：ほかにはよろしいですか

3 番 石垣保全計画 名古屋城全体か、天守台か

名古屋城全体なら数年かかると思う 工程と関係する

村木：天守台石垣について書いてある

瀬口：復元天守の寸法の分析

竹中：11 の小項目

配付資料のページ数が多い

抜粋をスクリーンに映す

- ・ 創建時の基準尺
- ・ 柱間
- ・ 階高

瀬口：ご意見・ご質問を

川地：ずいぶん詳細な検討をして頂いた

原点の 7 尺 1 分

根拠を分析していただけないか

いろいろ調べると、仮説が成り立つ

現代は 303.030mm 折衷尺

竹尺 303.63mm

鉄尺 302.58mm

その間を取って折衷尺

竹尺を使うと、ほぼ 7 尺 1 分 3 厘になる 誤差の範囲になる

竹尺は鉄尺より整合 伸び縮みがない

7 尺 1 分が理解できる

もう一つの仮説 けんぎを使う

伸び縮みがある 1 分くらいは余裕を見た

検知 6 尺 1 分にしていた

7 尺 1 分がどういうところから来たか分析を

瀬口：答えて

竹中：なぜこの寸法か 分析はたどり着けなかった

昭和実測図 寸法の測量誤差、施工精度

7.00 尺と書いてもあり得た 7.01 尺もなにか意味があると思っていた

なにかわかることがあれば報告したい

三浦：変わって答弁する

303.030mm 20 世紀の初めに明治政府が定めた

尺 金尺 昭和もそう

一番メートルと換算しやすい 江戸時代享保尺 3 尺 3 寸=1 メートルに近い

あまり 1 分 名古屋城天守閣とは関係がない 近代のものさし

ぞうえい尺 建物の寸法を測って何尺何寸

実測図 7 尺 1 分 計画図 7 尺

ただし正確 かなり乱れていたはず  
どのように丸めたか実証できない  
本当の数値に近かったらう

瀬口：他には よろしいか  
2-001 たるんでいる  
なぜそうなっているか  
北側が

竹中：実測図がこうなっている  
穴蔵の位置に合わせて  
穴蔵の石垣がある

瀬口：他はあるか

川地：小天守 柱位置  
2-002 石垣を前提にすれば、東側が直線ではない  
今のちなみにSRC小天守ははみ出していない  
直角か？

竹中：昔の天守の解釈 資料からは柱の壁が折れ曲がっている  
原因は石垣に合わせて  
現在の石垣の合わせるためではなく、もともと折れ曲がっていた  
さらにはみ出している  
今のSRCは直角長方形 現在の石垣に収まるように寸法を決めた

瀬口：4-9

竹中：大天守2階 「大黒柱」復元することにする  
別の柱 途中で入れたのでは？→復元しない  
屋根形状：5-001  
5-006 5-016 屋根の反り返り  
建具  
防弾壁  
狭間

瀬口：復元原案、計画案

川地：相当詳細な検討を感じた

屋根 第11回るとき 西北隅櫓の規矩図 天守の収まりとは違いではないか？

よく理解できる

軒先のそり上がりの勾配 規矩図には水平ライン 上がり寸法 そういうものはわかっている

曲線がどういう曲線か

11回の時 西北隅櫓と違って天守閣と同時期に建設された東南隅櫓、西南隅櫓は同じそり上がり 勾配

結果同じだという確認

建具 五重のところ 中の敷居はない

宝暦年間改修 外側「戸」中「戸」 まいらどではないか

本丸御殿 まいらど

五重のまいらど 棧が入っている

ちっともおかしくない 「戸」同質の建具ではなかったか

以前こだわった、防弾壁 5階もぎりぎり入るのではないか

理由としては、熱田の木 木材の受け取り 地下1層2層3層 5重にいたご 154枚

「いたご」建築の辞彙 厚み5寸

けやきと書いてある 防弾壁ではないか

三角の写真 防弾壁 1寸くらい

154枚 28スパン に使ったのではないか

それ以外使った ない

瀬口：3点お願い

竹中：建具 5階間仕切り まいらどと解釈できるのではないか

資料によってはそう解釈できるかも

金城恩顧録 「まいらど」ではなく「ふすま」

外周部とは違う 実物がなかった

ふすまと解釈した 見直したい

防弾壁 4寸入るか 一部分について

全部4寸でなければならぬわけではない 入る寸法の防弾壁

屋根面に隠れている 5階には入れていなかったのではないか

5階窓 外観上は窓 片方は固定されていた壁

下の階と同じ防弾壁 考えられる

この場でどちらと結論は出せない

竹中：屋根 関係性は見つかっていない

軒先ライン やだるみ 曲線を言うのは難しい

円弧に近い状況

軒先ライン 作図手法ではなく、当時の昭和実測図

文部省から来た技師の指導に従って行った

昭和実測図を正当性 実測図から正当性をはかった

瀬口：屋根勾配も資料が見つければ

次に畳など

竹中：畳 写真は見つかっていない

文献資料には畳の記載あり

敷かれていった畳が少なくなっていた

創建に近い時期が畳

実際に復元する範囲 調整の上決定したい

大天守の畳枚数 地階以外 畳

小天守 2階中央だけ畳 1階中央記載なし 現状では畳敷きではなかったと考える

畳の文様 メンテナンス

1750年ごろ すべて畳が敷かれていた

1810年 多くの畳が失われ、補充もなかった

割り付けまで記録した文書があった

階段 分析 踊り場 かまち状のもの

井戸 地階

1階 井戸のライン

物見台 5階にあった 写真では4階

動線計画と干渉する 1カ所は復元したい

小天守地上から昇る石垣の階段 木造の手すり

取り付け方法、安全な高さを計画

瀬口：畳、階段、後代の改造

川地：畳 五重のところ 物見台と同時にごぎを敷いた

2畳大

物見台とごぎ 縁が他と違って大紋

階段 唯一復元する中で訪れる方が避難施設として使う施設  
設計者としては階段の踏み始め、踏み終わり 変えることはありえない  
変えなきゃいけない 常に避難施設 お使いになるので  
安全性という意味では蹴上げが違っている 場合によってはならしてもよいのでは  
エレベーターに変わる昇降 車いすの昇降を考える上でも、  
同じ蹴上げにしてもあってもいいのではないか  
史実に忠実とはいえ、階段はそう判断してもよいのでは

瀬口：構成員の意見を聞きましょうか

古阪：通し柱の違い

ここの天守閣部会はどこまでを評価していれるのか  
市が進められることを「いいじゃないか」  
石垣部会が混乱状態にある  
どこまでを持つか 震災が起こる可能性高い  
どこまで史実に忠実にするか 安全にするか  
具体的な個別 安全のためには違う  
文化庁に天守閣をもって行くとどうなるのか  
ここでやるのか、文化庁とやるのか  
石垣が典型的だが そこが一番気になる

瀬口：階段はどうしましょう

古阪：階段もそう考えるべき

90-100歳 ハンディキャップ  
段違い ばらばら 事故が起きる  
新しい時代の構造 運動能力 昔のことではない

瀬口：復元原案は史実に忠実に

今の常識的には変わる どっかに逃げないといけない  
江戸時代 まず実測の間違いがいないか  
変えるところは変える  
ここで決まると思う  
所長に答えてもらいましょうか どういうつもりか

西野所長：竹中の提案 優秀提案

基本設計・実施設計 具体的な内容にしている  
案を出しながら先生からご意見をいただく  
踏まえて作っていく  
瀬口座長おっしゃったとおり、審議頂いたものを名古屋市の案として  
文化庁に示したい

古阪：文化庁が全部判断するのか  
京都 文化財がいっぱいある 犠牲にすること、そのまま  
判断は文化庁ではなく、名古屋市がやること  
石垣 直下型ができた場合、石垣が持つのか？  
史実に忠実に 自然現象の中でどうするか  
とかく「史実に忠実に」重要だが、名古屋市民のために安全を  
天守閣部会も近い  
文化庁にもって行って、は違う  
京都市は違う  
史実に忠実は大事だが、もっと問題がある  
管柱・通し柱 銅板  
早めに用意しないといけない

瀬口：文化庁は地元の有識者会議の意見の一致を  
天守閣部会も、名古屋市と齟齬があると原案は通らないと思う

古阪：部会と竹中の議論はあるが、名古屋市の意見はこの場にいると思う

瀬口：名古屋市がもっと意見を出せ、と

古阪：マスコミも市民もいるので意見を出せ

小野：もっとも 名古屋市も意見を  
建物の安全性 昔のままでやるわけにはいかない  
新しい技術を  
それなりに意見を言って、具申をして竹中・名古屋市が作っていくスタンスだと  
当初から思っている

瀬口：技術提案交渉方式 通常の文化財とは違う方式  
工期を延ばそう、金をかけよう は名古屋市が考えるべき

それを踏まえて  
名古屋市のいいなりにやろうというわけではない

古阪：現実的に踏まえて  
そうやらないと間に合わない  
いつまでやってもできない

瀬口：実施設計が再来年の5月？  
実施の詳細は次の部会にかかると思っている  
方針は

古阪：史実をみて検討する

瀬口：実施設計 ここまでやらないといけない  
いつの段階であげるのか  
全体の工程 この部会の当面実施設計部分の工程も欲しい  
ただ議論しているだけではないか

三浦：今までの資料 分析 史実の解明  
不合理だからこう すべて実施設計の方針  
史実はこう 変更するとはいわない  
蹴上げ調整 意見をいわないといけない  
言わないと史実に忠実にできちゃう  
設計すると書いてある  
既に提案と理解している  
不合理といわないといけない  
「検討するように」と提案しないと

瀬口：復元原案と復元案が同時に出てくる  
実施設計の工程案を出していかないと、今の混乱にしているのではないか  
だして頂けないでしょうか。  
一方木材調達も進んでいる  
だれが答えるの？

蜂谷：そのように次回出す

三浦：「蹴上げは検討するように」では

瀬口：そう

西形：地階穴蔵 安全性

この状態で復元していいのか

熊本で検討されている 将来必要なのか今言わないと行けないのか

ぜひ検討をお願いしたい

それは石垣部会のことか

小野：石垣はこの部会で提案されていて、部会としては

瀬口：基本計画として出したい、と名古屋市が提案

天守閣部会-木造についてはおおむね了承

石垣については意見が出たので、石垣部会と調整して

木造と石垣の接点について了承していない

古阪：文化庁との関係

直下型大地震 どう耐えるか

一方で文化庁 基本的価値、歴史的価値としてどう評価するか

基本的な価値 地震で壊れては終わり

天守閣部会として実際議論しないと行けない

瀬口：石垣は、石垣部会と認識していないとだめ

その後天守閣部会で議論しよう

古阪：前回、毎回マイルストーンを書くよう要請した

蜂谷：前々回、工程・ずれはだした

文化審議会 諮るにはいたらなかった

石垣部会との認識 一致していない

全く不透明

固まったところを出したい

瀬口：よろしいでしょうか

古阪：やめておきたい  
オープンして

瀬口：久しぶりにオープンにした  
プロパーの部分に実施設計部分をすりあわせたい  
どの段階で何を決めるか  
復元の全体 天守閣部会だけではできない  
総合事務所がやらないといけない  
ペンディングはいくつかあった  
原案と復元案  
復元案の確認を一個ずつすべき  
量・階段 課題は残った  
なければ本日の議題は終わった  
その他

蜂谷：その他はありません

瀬口：全て終わった

蜂谷：ありがとう

11 : 59